

じしょう ようちん 通信

vol.43

企画・編集: (株) ASO



おもしろいね!
たのしいね!



0・1・2歳児から
英語とふれあう

ENGLISH TIME!

knock knock,
trick or treat?
who are you?



10月に取材しました。

園の中には赤ちゃんの時から いつの間にか英語があった!!

どっちも楽しい!

ネイティブの先生と英語遊び

『サイバードリーム』で毎日、英語にふれる

英語力は身につけさせたいが、「いつ頃?」「どのように?」と悩む親御さんにとって、0歳児から取り組み始めた慈照幼稚園の試みは、1つのヒントになるかもしれない。この日は英語の先生がやってきて、0・1歳児、2歳児クラスの英語タイムがあると聞き、お邪魔することになりました。
レポーター あきもとさちこ



子どもたちは優しいクリスティーナ先生が大好き!

クラスの先生の膝抱っこで、じーっと見つめ耳を傾ける0歳児。「バレリーナ!」と発するクリスティーナ先生の発音をそのままマネして、マネっこ動きをする1歳児。all englishではなく、「これなに?」「はい上手!」と時折日本語を挟むのは、その方が小さい子は安心するからと先生。「0・1歳児の脳はスポンジのように言葉を吸収しています。耳に慣れると、日本語と同じように自然に覚えられますね」。クリスティーナ先生との英語の時間は子どもたちも興味津々です。

毎日聞いている「サイバードリーム」で自然に慣れていく

2歳児クラスになると、クリスティーナ先生の言っていることはほとんどわかるそうです。立つ、座る、歩くなどの動作語や単語も、ジェスチャーで体を動かしながら覚えていくので、とにかく楽しい! 子どもたちはノリノリです。

「慈照の子は、英語に慣れていきますね」。毎日取り組んでいる「サイバードリーム」のよさもクリスティーナ先生は実感しているという。バーコードをピッとすると、ネイティブスピーカーによる会話や単語、歌がモニターに登場する「サイバードリーム」。親しみやすい内容で、0歳児も目を輝かせて、じっと見入っています。

サイバードリーム



↑ バーコードをピッとするとモニターに映ります。



これ、なに?
"black cat!"



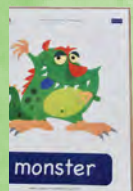
ニャフ
ニャフ!



TRICK OR TREAT!



← ハロウィンカードで遊んだよ。





慈照の「英語の時間」はこんなふうに

Native

ネイティブの英語の先生と
ふれあって遊ぶ！ 週1回／0・1・2歳児は隔週

Cyber
Dream

毎日の積み重ねは大きい
「サイバードリーム」毎日10分程度

Grape
SEED

本格的にレッスンを受けた人は
「グレイプシード」選択制



「クリスティーナ先生の one point」

お家では、英語の歌やアニメを小さいうちから
見せたり聞かせてほしいですね。音楽もただ
流しておくだけでいいですよ。

この日に使ったソング

- ♪ Hello Hello
- ♪ Knock, Knock, Trick or Treat
- ♪ Go Away
- ♪ See you Later

YouTubeで
検索！



Happy Halloween!



耳のよさは、0・1・2歳児にはかなわない

0・1歳児の「耳」にいち早く注目した村中園長が、「サイバードリーム」を0・1・2歳児に本格的に導入したのは今年度に入ってから。映像だけでなく、ネイティブの先生とのふれあいも大事にしたいと、クリスティーナ先生との楽しい時間も並行してつくったそうです。英語の発音や聞き分ける能力は、小さい時ほどいいといわれています。0・1歳から英語に親しめる環境づくりは大いに期待が膨らみますね。

取材を終えて

「サイバードリーム」もネイティブ先生との英語の時間も、笑ったり、はしゃいだり、とっても楽しそう。自然に耳に慣れていく環境づくりで、英語がいっそう身近になっていきそうですね。

動画で見てね！

こちらのQRコードから、英語のレッスン風景がご覧になれます。
<https://youtu.be/SDojCctY7m>



短い時間でも気持ちがしっかり満たされる！ 安心して無理がない「おやこ時間」の作り方

子どもと過ごすおうち時間。いつもベツタリは疲れてしまうけれど、放任も良くないと思うし。幼児期の子どもの関わりって、どれくらい、どんなふうにしたらいいの？子どもと親との「ちょうどいい関わり方」について、専門家の先生におたずねしました。

お話／山梨大学准教授 川島亜紀子先生

園の先生たちに学ぶ「子ども対応」のポイントとは



一日中、子どもの相手をしていたら疲れちゃう。それはどんなママでもきっと同じ。あなただけではないので、まずは安心してくださーいね。

幼稚園や保育園の先生のことを考えてみましょう。先生たちは、いつも子どもにくっついていてわけではありません。でも、子どもが「せんせーい！」と声をあげると、次の瞬間には「どうしたの？」とその子のすぐ側で対応しています。

「必要とされるまでは放っておく」「必要とされたら、すぐに手の届くところまで近づいて対応する」「対応したら、また放っておく」という流れが完全にできています。

この流れができれば、子どもたちは、「困ったことがあっても先生を呼んだらすぐに来てもらえる」ということを学習しますから、安心して遊ぶことができます。

「呼ばれたら、こたえる。そばにいく」。家庭でもそれが基本です



これは、親子の関わりにも応用できます。

子どもに呼ばれたら、「何？ どうしたの？」と子どもに手が届く距離まで近づく。

「見て、見て」と言われたら、そばに行って「どうしたの？」「それは何？」などと会話をする。内容にもよりますが、時間でいうと1～2分くらいでしょうか。

何も特別ではなく、ごく当たり前のやりとりですが、こんな短い時間でも、親に言いたいことを聞いてもらい、やってほしい手伝いをしてもらえば、子どもはじゅうぶん満足します。

このとき大事なことは、「何かをしながら」ではなく、「今は、子どものためだけに時間を使おう」という意識を持つことです。「あなたのことはいばん大事だから、いつでもちゃんと相手をするよ」という気持ちをしっかりと持つこと。そして、それが子どもに伝わるような関わり方を心がけたいですね。

手が離せないときは事前に説明しておくという手も



忙しいときに限って、子どもに呼ばれてイライラ……。どこかの家庭でもよくある光景だと思います。

すでに言葉でのやりとりや約束が十分にできる年齢の子どもなら、手が離せない作業に入る前に、「今からママは〇〇をするから、5時（時計の針が5になる）まではすぐにお返事で

きないよ」「でも、おなかが痛いとか、何か困ったことがあったら呼んでね」などのように、具体的に伝えておくことも有効です。「終わったら、ゆっくりお話を聞くからね」と約束しておくことも、子どもの安心感につながります。

それがまだ難しい場合は、やはり親の方が子どもの要求に合わせていく必要があるでしょう。大人はつい「あとでね」といいがちですが、どうしても手が離せない状況って、実はそんなに多くはなかったりします。

「あのとき、ちゃんと子どものために時間を使っておけばよかったな」と、後から思うのはせつないもの。「子どもが求めてくるときに、1分でいいから楽しい時間をいっしょに過ごそう」、そんなふうにちょっと発想を切り替えてみるのもいいかもしれません。

「いつでもどうぞ！」とドンとかまえると、子どもは安心します



不思議なことに、親が「よし、私はいつでも子どもが望むときに対応する！今日は子どもを最優先にする！」とかまえていると、なぜか拍子抜けするくらいに子どもの「見て、見て」「来て、来て」が減ります。「今忙しいのに」「うるさいなあ」と腰が引けているときほど、子どものグズグズはエスカレートするように感じます。

子どもと過ごす時間は大切と言っても、親はいつも子どものそばにいる必要はありません。子どもだって、ずっと親に密着されていたらイヤ。いてほしいときだけ、いてくれたらいいんです。

わがまま？確かにそうですよね（笑）。でも、子どもは「自分が呼んだら、お母さんは見てくれる、来てくれる」というくり返しを通して、「自分はお母さんにとってそういう（大事な）存在なんだ」という感覚をはぐくんでいきます。

それは、これから少しずつ自立に向けて成長する子どもたちにとって、大事な心の土台になります。そう考えると、毎日の「見て見て、来て来て攻撃」もなんだか愛おしく思えてくるかもしれません。

取材・文／中島恵理子



川島 亜紀子 Akiko Kawashima

山梨大学准教授。放送大学客員准教授。お茶の水女子大学大学院博士課程修了。公認心理師・臨床心理士。専門は夫婦・家族関係と子どもの発達に関する発達精神病理学的研究。幼稚園での保育カウンセラー、講演会講師など、子育て支援の現場でも活動。著書は『夫婦げんかと子どものころ』（新曜社）、助産学講座4「母子の心理・社会学」（医学書院）ほか。2児の母。